

徳島大学・明治大学・徳島県連携事業

事業のポイント

- 各機関による教育・研究活動の包括的交流と連携・協力の推進による教育・研究の進展。
- 各機関が持つ教育資源や知的財産等を活用した社会貢献と人材育成。

事業の概要

1. 事業の目的

本事業は、徳島大学、明治大学、徳島県の教育・研究活動の包括的な交流と連携・協力の推進により、わが国の教育・研究の一層の進展に資することを目的とするとともに、各機関がそれぞれ持つ教育資源、知的財産及び人材と歴史、文化、自然を活用した連携事業を通じて、地域社会への貢献と人材育成に寄与することを目的としている。

2. 連携事業

第7回目となる連携事業は、徳島大学が主担当となり、明治大学の公開講座であるリバティアカデミーの一環として、令和2年11月28日（土）にオープン講座「大災害時代へ、その備えは？」をオンラインで開催し、約100名が受講した。

第1部では、本学の環境防災研究センター長の中野 晋教授から「大規模水害の時代に備える」、明治大学情報コミュニケーション学部的小林 秀行講師から「災害復興から考える“社会づくり”としての防災・減災・縮災」、本学の大学院社会産業理工学研究部理工学域の山中 英生教授から「家族の住まい方と災害からの生活再建」とそれぞれ題して講演があった。

事業代表者・連絡先

吉田 和文（地域連携戦略室長、理事（地域・産官学連携担当）、副学長）
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9880
e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

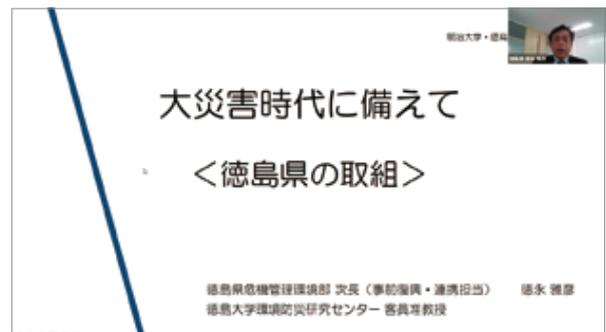
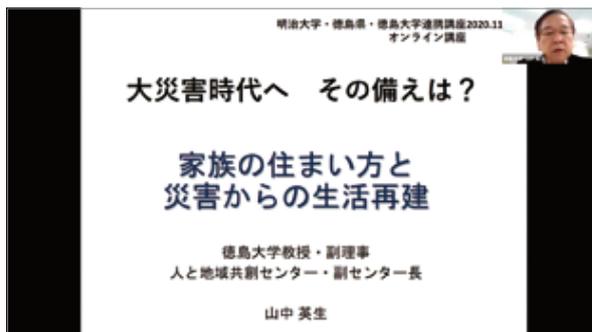
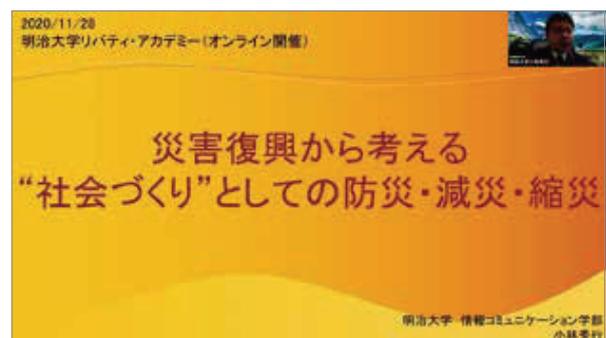
第2部では、講演をいただいた講師に、徳島県危機管理環境部の徳永 雅彦次長が加わり、徳島県における防災の取組を交えながら、「大災害時代に備えて」をテーマにパネルディスカッションを行った。パネルディスカッションでは、地球温暖化等の影響で激甚化が進む水害をはじめとした近年の災害の特徴や復旧・復興の取組について、意見を交わした。

参加者からも、新型コロナウイルス感染症等の感染症が拡がる中での避難所での感染対策や、日頃からの災害に対する意識付けの方法等について質問があり、参加者を交えて活発な意見交換がなされ、幅広い観点から災害への備えについて学ぶ機会となった。

3. 今後の展開

連携事業は本学と徳島県が交互に主担当として開催している。

このほか、各機関が持つ教育資源を活用した授業やフィールドワークの開講、研究や学生の交流等、地域社会への貢献や人材育成への寄与、教育・研究の進展を目的とした様々な事業を実施しており、今後も連携を継続していく。



オープン講座の様子